

学校教育ビジョン  
学校教育目標  
「これからの時代を生き抜く、たくましい東谷口っ子の育成」  
～みんなが笑顔の学校をみんなでつくる みんなが笑顔の未来をみんなでつくる～

学校経営理念  
・子どもにとって、安心して学べ、大切にされていると実感できる学校  
・教職員にとって、安心して仕事ができ、働きがいのある学校  
・保護者にとって、安心して子どもを任せられ信頼できる学校  
・地域にとって、安心して東谷口の未来を担う子どもたちを託せ、ともに育てる学校

| 評価の項目              | 今年度の重点目標                   | 具体的取組                                                                                            | 主担当            | 現状及び取組状況                                                                                 | 評価の観点                                                            | 実現状況の達成度判断基準                                                     | 備考                    | 判定結果<br>(中間) | 判定結果<br>(最終) | 今後の改善策 |
|--------------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------|--------------|--------------|--------|
| ①教育課程・学習指導         | 条件や内容に気をつけながら記述する          | 条件や内容を意識して文章が書けるよう、国語科を中心とする授業やパワーアップタイムで継続的に取り組む。                                               | 学力向上<br>(研・学)  | 授業や学力テストなどから、字数や資料の活用など、条件に合わせて記述することが苦手な児童が見られる。                                        | 【成果指標】<br>条件や内容に気をつけながら記述できたか。                                   | 児童の肯定的評価が<br>A 90%以上 B 80%以上<br>C 70%以上 D 70%未満                  | 児童アンケート<br>(7・12月)    |              |              |        |
|                    | 個の確かな力につながる活動場面の工夫         | 児童が主体的に課題解決に向かうための単元構想の工夫や学びの環境づくりに重点を置き、共通実践に取り組む。                                              | 研究<br>(研・学)    | 委ねる場面における児童の学びの深まりに課題がみられる。ねらいを明確にし、多様な考えに触れながら自分の学びや変容を実感できるような活動場面の工夫が必要である。           | 【努力指標】<br>共通した取り組みを行い、児童の主体的な学びを意識して授業づくりを行っているか。                | 教員の肯定的評価が<br>A 90%以上 B 80%以上<br>C 70%以上 D 70%未満                  | 教員チェックシート<br>(毎月)     |              |              |        |
| ②生徒指導<br>※いじめの未然防止 | 日常的な発達支持的生徒指導の実施           | 学校の教育目標を軸に、児童の発達を支える働きかけを行う。また、生徒指導の4つの視点を意識した授業づくりを共通実践する。                                      | 生徒指導<br>(生徒指導) | 児童がより主体的に学習に取り組めるように、明確なめあてや自分の考えを持つことができるよう工夫が必要である。                                    | 【努力指標】<br>生徒指導の4つの視点の自己決定を意図的に授業や行事等で取り組むことができる。                 | 教員の肯定的評価が<br>A 90%以上 B 80%<br>C 70%以上 D 70%未満                    | 教員チェックシート (毎月)        |              |              |        |
| ③キャリア教育・進路指導       | 学校生活の中で自分の役割や責任を果たす        | 係活動や清掃活動、委員会活動において自身の役割や責任を果たすことは学級、学校全体に立っていることを自覚させる。学期初めの目標設定、学期末の振り返りやキャリアパスポート活用をする。        | キャリア<br>(研・学)  | すべきことを真面目に取り組む児童が多いが、自分に自信がない児童も多い。係活動や清掃活動、委員会活動は、学級、学校全体に役立っているという認識が低い児童もいる。          | 【成果指標】<br>児童が、係活動や清掃活動、委員会活動において、役割や責任を果たし仕事をすることができたか。          | 児童の肯定的評価が<br>A 90%以上 B 80%以上<br>C 70%以上 D 70%未満                  | 児童アンケート<br>(7・12月)    |              |              |        |
| ④保健管理              | 基本的生活習慣の確立                 | 自分の課題に合わせたメディアコントロールの目標を立て取り組めるように、委員会活動や元氣アップ週間を通して啓発し、生活習慣の改善を図る。                              | 養教<br>(生徒指導)   | 日常的にゲームやインターネットなどの利用時間が長く、生活リズムが不規則になりやすい児童がいるため生活習慣の改善を図る必要がある。                         | 【成果指標】<br>元氣アップカードのメディアコントロールの目標を守ることができたか。                      | 児童の肯定的評価が<br>90%以上 B 80%<br>C 70%以上 D 70%未満                      | A<br>元氣アップカード (7・12月) |              |              |        |
|                    | 1校1プランの推進による運動の習慣化と体力向上    | 体育の学習の最初に、立ち幅跳びチャレンジを取り入れる。休み時間も同様に立ち幅跳びチャレンジの場所を設定し、取り組めるようにする。                                 | 体育<br>(生徒指導)   | 自校の体力テストの結果では、立ち幅跳びの種目で多くの学年が県平均を下回っている。そのため、昨年度も立ち幅跳びの取り組みを行っているが、児童への定着は不完全であった。       | 【成果指標】<br>立ち幅跳びの記録を測り、前回の記録よりも跳んだ距離を更新することができる。                  | 記録が向上した児童の割合が<br>A 90%以上 B 80%<br>C 70%以上 D 70%未満                | 記録計測<br>(5・7・12月)     |              |              |        |
| ⑤安全管理              | 避難訓練の計画的な実施と児童職員の意識向上      | 火災・地震・不審者に対する避難訓練を通して児童の危機予測・危機回避能力の育成とともに職員の危機未然防止・対応能力の向上を図る。                                  | 教頭<br>(総)      | 避難訓練等を計画的に実施し、児童の危機への対応能力を高めているが、継続して実施し、自分で考えて行動する力を伸ばしていく必要がある。                        | 【努力指標】<br>教員が訓練に際し、児童の安全への意識を確認したり高めたりするよう努めたか。                  | 児童・教員の肯定的評価が<br>A 95%以上 B 85%以上<br>C 75%以上 D 75%未満               | 児童・教員アンケート<br>(訓練ごと)  |              |              |        |
| ⑥特別支援教育            | 全ての子どもが安心して参加できる授業         | 児童理解の会を定期的に行う。必要に応じて校内委員会を行い、児童の情報共有をきめ細かに行う。さらに、特別支援アドバイザーを招いて研修会を持ち、ユニバーサルデザインを意識した授業作りの向上を図る。 | 特別支援<br>(研・学)  | 児童理解の会や校内委員会で気になる児童の情報共有を行っている。共有した情報や検討した支援方法生かして、全ての子どもが安心して参加できるわかりやすい授業作りに取り組む必要がある。 | 【努力目標】<br>児童理解の会や研修等を通して、児童の情報共有・支援方法を検討し、よりよい指導・支援につなげることができたか。 | 教員の肯定的評価が<br>A 90%以上 B 80%以上<br>C 70%以上 D 70%未満                  | 教員アンケート<br>(7・12月)    |              |              |        |
| ⑦組織運営・業務改善         | 業務の効率化・平準化によるワークライフバランスの推進 | 多岐にわたる業務の優先順位を考え、見直しをもって早めに取りかかり、業務の効率化及び平準化を図る。                                                 | 教頭<br>(総)      | 全職員が定時退校日や目標退勤時刻を意識して超過勤務時間削減に取り組んでいる。職員の業務の平準化に努めている。                                   | 【成果指標】<br>計画的・効率的な業務遂行に努めることで、毎月の時間外勤務の平均が60時間を超えなかったか。          | 超過勤務時間の平均が月に60時間を超えない教職員の割合が<br>A 90% B 80%以上<br>C 70%以上 D 70%未満 | 勤務時間調査<br>(7・12月)     |              |              |        |
| ⑧研修                | 考えを深めるための授業づくり             | 児童が主体的に学び、自分の考えを表現できるよう、様々な指導方法を学べるように、研修内容の充実を図る。                                               | 校内研修<br>(研・学)  | ミニ研修会(金曜)を昨年から行い、教員のニーズに合った研修を行っている。今年も行い、教員の研修意欲につながるよう内容を精選して取り組む。                     | 【努力指標】<br>校内研修が授業づくりや自己研鑽に役立ったか。                                 | 教員の肯定的評価が<br>A 90%以上 B 80%以上<br>C 70%以上 D 70%未満                  | 教員アンケート<br>(7・12月)    |              |              |        |
| ⑨保護者、地域との連携        | 開かれた学校                     | 便りや、HPを活用し学校の様子を保護者に伝える。保護者アンケートや学校運営協議会により保護者や地域の声を学校運営に生かす。                                    | 教頭<br>(総)      | 定期的なホームページ更新や、学校だよりの発行が定着した。コドモンを活用した周知に取り組んでいる。                                         | 【満足度指標】<br>保護者が、学校の様子がよくわかると感じているか。                              | 保護者の肯定的評価が<br>A 95%以上 B 85%以上<br>C 75%以上 D 75%未満                 | 保護者アンケート<br>(7・12月)   |              |              |        |
| ⑩教育環境整備            | 校舎内外の安全と教育効果を高める教育環境の充実    | 日常的に安全点検・備品管理に努め、施設・設備・備品等の適切な整備を行う。                                                             | 主事・教頭          | 定期的に安全点検をし、修繕したり、備品補充したりしてきた。しかし、日常的な修繕が必要な場所や修繕しきれていない箇所がある。                            | 【成果指標】<br>管理場所の担当者が安全確保と環境整備に努め、常に学習・生活環境が整備されているか。              | 安全確保・環境整備が整っていると感じた教職員が<br>A 90%以上 B 80%以上<br>C 70%以上 D 70%未満    | 教職員アンケート<br>(7・12月)   |              |              |        |